

日本文学協会 第40回研究発表大会
令和3年7月4日（日）於 Zoom

1

前田家本『枕草子』本文章段考

張 培華
(日本女子大学非常勤講師)

1

前田家本『枕草子』本文 四冊

2

はるはあけほの
正月一日
小白河
めてたき物

2

● はるはあけほの

前田家本『枕草子』本文

国会図書館デジタル版

3

3

● 正月一日は

前田家本『枕草子』本文

国会図書館デジタル版

4

4

● 小白河といふ

前田家本『枕草子』本文

国会図書館デジタル版

5

5

● めてたき物

前田家本『枕草子』本文

国会図書館デジタル版

6

6

● 四冊順の問題

昭和二年（一九二七）
尊経閣叢刊丁卯歳
配本
育徳財団 発行
活字本（非売品）
『前田本まぐらの草子』

7

7

● 四冊順の問題

『前田本まぐらの草子』

目次

はるはあけほの巻 一
正月一日の巻 八三
小白河の巻 一三三
めてたき物の巻 二七三
附 録 五〇五

（育徳財団 一九二七）

8

8

● 四冊順の問題

複製本

（国文学研究資料館）

9

9

10

7/4/2021

複製本 ● 四冊順の問題

(国文学研究資料館)

10

11

7/4/2021

田中重太郎 『前田家本枕冊子新註』

● 四冊順の問題

章段目次

- 一 春はあけぼの
- 二 めでたきもの
- 三 正月一日は
- 四 小白河といふ

(古典文庫一九七二)

11

12

7/4/2021

『前田家本枕冊子新註』

● 四冊順の問題

(国文学研究資料館複製本)

12

13

7/4/2021

前田家本『枕草子』本文

● はるはあけぼの

四冊 第一冊目

(国会図書館デジタル版)

13

14

7/4/2021

● 春はあけぼの冊章段

一 春はあけぼのころは

二 節は

三 正月一日

四 夏は

五 冬は

六 日は

七 月日は

八 星は

九 霧は

一〇 風は

一一 降るものは

一二 山は

一三 峯は

一四 五

一五 四

14

15

7/4/2021

● 春はあけぼの冊章段

一 岡は

二 野は

三 原は

四 森は

五 川は

六 瀧は

七 池は

八 井は

九 湯は

一〇 濱は

一一 海は

一二 浦は

一三 島は

一四 三

一五 二

一六 一

15

16

7/4/2021

● 春はあけぼの冊章段

一 関は

二 むまやは

三 わたりは

四 橋は

五 みさゝぎは

六 里は

七 市は

八 屋は

九 家は

一〇 夏のしつらひは

一一 冬のしつらひは

一二 社は

一三 寺は

一四 木の花は

一五 木は

16

17

7/4/2021

● 春はあけぼの冊章段

一 草の花は

二 草は

三 鳥は

四 虫は

五 馬は

六 牛は

七 猫は

八 仏は

九 神は

一〇 経は

一一 陀羅尼は

一二 陀羅尼は

一三 法華経は

一四 時

一五 六

一六 〇

17

18

7/4/2021

● 春はあけぼの冊章段

一 修法は

二 法師は

三 説経師は

四 雑色・隨身は

五 小舎人童は

六 牛飼は

七 女は

八 若き人ちごどもは

九 上達部は

一〇 殿上人は

一一 受領は

一二 やどりつかさの権守は

一三 大夫は

一四 宮仕所は

一五 やまひは

一六 七

一七 三

一八 四

一九 五

18

19

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

七六 見ものは
七七 舞は
七八 弾くものは
七九 吹くものは
八〇 歌は
八一 歌の題は
八二 文は
八三 集は
八四 物語は
八五 あそびは
八六 あそびわざは
八七 女あそびは
八八 束帯は
八九 下がさねは
九〇 狩衣は

19

20

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

九一 指貫は
九二 檳榔毛は
九三 夏のうはぎは
九四 唐衣は
九五 裳は
九六 扇の骨は
九七 檜扇は
九八 織物は
九九 紋は
一〇〇 薄様は
一〇一 硯の箱は
一〇二 筆は
一〇三 墨は
一〇四 鏡は
一〇五 櫛の箱は
一〇六 火桶は
一〇七 豊は

20

21

7/4/2021

●四種 枕草子本文

池田亀鑑の分類

●三卷本

●能因本

●堺本

●前田家本

21

22

7/4/2021

●四種 枕草子本文

池田亀鑑の分類

●三卷本

●能因本

●堺本

●前田家本

●前

●三

●能

●堺

22

23

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

前

三

能

堺

一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一

一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九十 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八十 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六十四 六十三 六十二 六十一 六十 五十九 五十八 五十七 五十六 五十五 五十四 五十三 五十二 五十一 五十 四十九 四十八 四十七 四十六 四十五 四十四 四十三 四十二 四十一 四十 三十九 三十八 三十七 三十六 三十五 三十四 三十三 三十二 三十一 三十 二十九 二十八 二十七 二十六 二十五 二十四 二十三 二十二 二十一 二十 十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

23

24

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

前

三

能

堺

三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一

一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九十 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八十 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六十四 六十三 六十二 六十一 六十 五十九 五十八 五十七 五十六 五十五 五十四 五十三 五十二 五十一 五十 四十九 四十八 四十七 四十六 四十五 四十四 四十三 四十二 四十一 四十 三十九 三十八 三十七 三十六 三十五 三十四 三十三 三十二 三十一 三十 二十九 二十八 二十七 二十六 二十五 二十四 二十三 二十二 二十一 二十 十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

24

25

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

前

三

能

堺

三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一

一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九十 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八十 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六十四 六十三 六十二 六十一 六十 五十九 五十八 五十七 五十六 五十五 五十四 五十三 五十二 五十一 五十 四十九 四十八 四十七 四十六 四十五 四十四 四十三 四十二 四十一 四十 三十九 三十八 三十七 三十六 三十五 三十四 三十三 三十二 三十一 三十 二十九 二十八 二十七 二十六 二十五 二十四 二十三 二十二 二十一 二十 十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

25

26

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

前

三

能

堺

六〇 五九 五八 五七 五六 五五 五四 五三 五二 五一 五〇 四九 四八 四七 四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 九 八 七 六 五 四 三 二 一

26

27

7/4/2021

●春はあけぼの冊章段

前

三

能

堺

七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九十 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八十 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六十四 六十三 六十二 六十一 六十 五十九 五十八 五十七 五十六 五十五 五十四 五十三 五十二 五十一 五十 四十九 四十八 四十七 四十六 四十五 四十四 四十三 四十二 四十一 四十 三十九 三十八 三十七 三十六 三十五 三十四 三十三 三十二 三十一 三十 二十九 二十八 二十七 二十六 二十五 二十四 二十三 二十二 二十一 二十 十九 十八 十七 十六 十五 十四 十三 十二 十一 十 九 八 七 六 五 四 三 二 一

27

28

●春はあけぼの冊章段

前 28

三 能 堺

七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

二〇九 二〇八 二〇七 二〇六 二〇五 二〇四 二〇三 二〇二 二〇一 二〇〇 一九九 一九八 一九七 一九六 一九五 一九四 一九三 一九二 一九一 一九〇 一八九 一八八 一八七 一八六 一八五 一八四 一八三 一八二 一八一 一八〇 一七九 一七八 一七七 一七六 一七五 一七四 一七三 一七二 一七一 一七〇 一六九 一六八 一六七 一六六 一六五 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三 一五二 一五一 一五〇 一四九 一四八 一四七 一四六 一四五 一四四 一四三 一四二 一四一 一四〇 一三九 一三八 一三七 一三六 一三五 一三四 一三三 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三 一二二 一二一 一二〇 一一九 一一八 一一七 一一六 一一五 一一四 一一三 一一二 一一一 一一〇 一〇九 一〇八 一〇七 一〇六 一〇五 一〇四 一〇三 一〇二 一〇一 一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九〇 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八〇 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六十四 六十三 六十二 六十一 六十 五十九 五十八 五十七 五十六 五十五 五十四 五十三 五十二 五十一 五十 四十九 四十八 四十七 四十六 四十五 四十四 四十三 四十二 四十一 四十 三十九 三十八 三十七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

28

29

●春はあけぼの冊章段

前 29

三 能 堺

九二 九一 九〇 八九 八八 八七 八六 八五 八四 八三 八二 八一 八〇 七九 七八 七七 七六 七五 七四 七三 七二 七一 七〇 六九 六八 六七 六六 六五 六四 六三 六二 六一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

二〇九 二〇八 二〇七 二〇六 二〇五 二〇四 二〇三 二〇二 二〇一 二〇〇 一九九 一九八 一九七 一九六 一九五 一九四 一九三 一九二 一九一 一九〇 一八九 一八八 一八七 一八六 一八五 一八四 一八三 一八二 一八一 一八〇 一七九 一七八 一七七 一七六 一七五 一七四 一七三 一七二 一七一 一七〇 一六九 一六八 一六七 一六六 一六五 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三 一五二 一五一 一五〇 一四九 一四八 一四七 一四六 一四五 一四四 一四三 一四二 一四一 一四〇 一三九 一三八 一三七 一三六 一三五 一三四 一三三 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三 一二二 一二一 一二〇 一一九 一一八 一一七 一一六 一一五 一一四 一一三 一一二 一一一 一一〇 一〇九 一〇八 一〇七 一〇六 一〇五 一〇四 一〇三 一〇二 一〇一 一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九〇 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八〇 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六十四 六十三 六十二 六十一 六十 五十九 五十八 五十七 五十六 五十五 五十四 五十三 五十二 五十一 五十 四十九 四十八 四十七 四十六 四十五 四十四 四十三 四十二 四十一 四十 三十九 三十八 三十七 三六 三五 三四 三三 三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

29

30

●前田家本 仮説

楠 道隆『枕草子異本研究』

仮説「前田家本伝能因本と堺本とを底本として集成して作られた後人による改修本である」

(笠間書院 一九七〇・六頁)

30

31

●春はあけぼの冊章段

前 31

三 能 堺

二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

二〇九 二〇八 二〇七 二〇六 二〇五 二〇四 二〇三 二〇二 二〇一 二〇〇 一九九 一九八 一九七 一九六 一九五 一九四 一九三 一九二 一九一 一九〇 一八九 一八八 一八七 一八六 一八五 一八四 一八三 一八二 一八一 一八〇 一七九 一七八 一七七 一七六 一七五 一七四 一七三 一七二 一七一 一七〇 一六九 一六八 一六七 一六六 一六五 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三 一五二 一五一 一五〇 一四九 一四八 一四七 一四六 一四五 一四四 一四三 一四二 一四一 一四〇 一三九 一三八 一三七 一三六 一三五 一三四 一三三 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三 一二二 一二一 一二〇 一一九 一一八 一一七 一一六 一一五 一一四 一一三 一一二 一一一 一一〇 一〇九 一〇八 一〇七 一〇六 一〇五 一〇四 一〇三 一〇二 一〇一 一〇〇 九十九 九十八 九十七 九十六 九十五 九十四 九十三 九十二 九十一 九〇 八十九 八十八 八十七 八十六 八十五 八十四 八十三 八十二 八十一 八〇 七十九 七十八 七十七 七十六 七十五 七十四 七十三 七十二 七十一 七十 六十九 六十八 六十七 六十六 六十五 六四 六三 六二 六一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一

31

32

●唐代 類書

●前田家本 前

●初学記 初

●芸文類聚 芸

●白氏六帖 白

32

33

●春はあけぼの類書

前 初 芸 白

一 春は 歳時 春

二 ころ 歳時

三 節は 歳時

四 正月 歳時

五 夏は 歳時

六 冬は 歳時

七 日は 天部

八 月は 天部

九 星は 天部

十 雲は 天部

十一 霧は 天部

十二 風は 天部

十三 降る 天部

十四 山は 山部

十五 峯は 山部

山 風 霧 雲 星 月 日 冬 夏 正 月

33

34

●春はあけぼの類書

前 初 芸 白

一 岡は 地部

二 野は 地部

三 原は 地部

四 森は 地部

五 川は 地部

六 淵は 地部

七 池は 地部

八 井は 地部

九 湯は 地部

十 海は 地部

十一 濱は 地部

十二 崎は 地部

十三 浦は 地部

十四 島は 地部

浦 海 湯 井 池 原 野

34

35

●春はあけぼの類書

前 初 芸 白

一 関は 地部

二 驛は 地部

三 渡は 地部

四 橋は 地部

五 陵は 地部

六 里は 地部

七 市は 地部

八 居は 居処

九 家は 居処

十 夏の 居処

十一 冬の 居処

十二 社の 礼部

十三 寺は 礼部

十四 木は 木部

十五 果は 果木

木 木 寺 社 冬 夏 屋 里 陵 橋 津 驛 関

35

36

●春はあけぼの類書

前 初 芸 白

一 草の 草部

二 花は 草部

三 鳥は 鳥部

四 虫は 虫部

五 獸は 獸部

六 牛は 獸部

七 馬は 獸部

八 佛は 靈異

九 神は 靈異

十 經は 靈異

十一 陀羅 靈異

十二 羅 靈異

十三 経 靈異

十四 法華 靈異

十五 時は 儀飾

經 神 佛 牛 馬 鳥 草 草

36

37 7/4/2021 ●春はあけぼの 類書

前 初 芸 白

六一修法 道積 道積 霊異 霊異 経 師 法
 六二法師 道積 道積 霊異 霊異
 六三説経 道積 道積 霊異 霊異
 六四隨身 道積 道積 霊異 霊異
 六五小舎 人部 人部 人部 人部
 六六牛飼 人部 人部 人部 人部
 六七女は 人部 人部 人部 人部
 六八若人 人部 人部 人部 人部
 六九上達 人部 人部 人部 人部
 七〇殿上 職官 職官 職官 職官
 七一受領 職官 職官 職官 職官
 七二宿り 職官 職官 職官 職官
 七三大夫 職官 職官 職官 職官
 七四官仕 職官 職官 職官 職官
 七五病は 職官 職官 職官 職官

政理 政理 政理 政理 政理 政理 政理 政理
 方術 職官 職官 職官 職官 職官 職官 職官

医 大夫

37

38 7/4/2021 ●春はあけぼの 類書

前 初 芸 白

七六見物 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部
 七七舞は 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部
 七八弾く 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部
 七九吹く 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部
 八〇歌は 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部
 八一歌題 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部 樂部
 八二文は 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八三集は 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八四物語 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八五遊び 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八六技は 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八七女の 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八八束帯 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 八九下襲 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 九〇狩衣 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部

服食 服食 服食 服食 服食 服食 服食
 衣冠 衣冠 衣冠 衣冠 衣冠 衣冠 衣冠

帶 歌 舞

38

39 7/4/2021 ●春はあけぼの 類書

前 初 芸 白

九一櫛櫛 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 九二夏の 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 九三夏の 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 九四唐衣 服食 服食 服食 服食 服食 服食
 九五裳は 服食 服食 服食 服食 服食 服食 服食
 九六扇の 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 九七櫛扇 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 九八織物 服食 服食 服食 服食 服食 服食 服食
 九九紋は 服食 服食 服食 服食 服食 服食 服食
 一〇〇薄様 服食 服食 服食 服食 服食 服食 服食
 一〇一硯の 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 一〇二筆は 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 一〇三墨は 文部 文部 文部 文部 文部 文部 文部
 一〇四鏡は 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 一〇五櫛の 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 一〇六火桶 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用
 一〇七晝は 器用 器用 器用 器用 器用 器用 器用

居処 居処 居処 居処 居処 居処 居処
 舌処 舌処 舌処 舌処 舌処 舌処 舌処

墨 筆 硯 扇

39

40 7/4/2021 ●前田本 類書

前田家本 初学記 芸文類聚 白氏六帖

40

41 7/4/2021 ●枕草子 跋文

『新編日本古典文学全集』

左中将まだ伊勢守と聞えし時、里におはしたりしに、堀の方なりし臺をさし出でしものは、この草子取り出でにけり。まどひ取りいれしかど、やがて持ておはして、いと久しくありてぞ返りたりし。それよりありきぞめたるなめり、とぞほんに。

(小学館・四六八頁)

41

42 7/4/2021 ●源経房伊勢守

『公卿補任』源経房
 長徳元(996)正七從四下
 十三日伊世權守
 同二(996)七廿一右中將
 同三(997)正廿八備中將
 同四(998)十廿二左中將
 (吉川弘文館 一九九四・二五五頁)

42

43 7/4/2021 ●枕草子 一三七

『新編日本古典文学全集』

腰などのおはしまさで、後よの中に奉出で来さわがしうなりて、言もまららせたまはず、小二条殿といふ所におはしますに、何ともなかりたりしかば、久しう里にありたり。

(小学館・二六〇頁)

43

44 7/4/2021 ●藤原伊周 左遷

『増補史料大成』別巻一(小右記一)

長徳二年(996)四月廿四日
 太宰權師、正三位藤原伊周、元内大臣

(臨川書店 一九九七・一一四頁)

44

45 7/4/2021 ●枕草子 二五九

『新編日本古典文学全集』

さて後ほど聽て、心から思ひ起るも事ありて、里にあるころ、めでたき時、二十を包みて給はせたり。

(小学館・二六〇頁)

45

46
7/4/2021

池田亀鑑『研究枕草子』
前田家本枕草子は、最も原本に近いものであり、これが分類は、又最も原本の分類に近いものである想像するのである。但し確実なる証拠が別に発見せられるまで、この推定はあくまでも推定に止まるべきであることを、幾重にも断っておかねばならぬ。
(至文堂 一九八一・二二三頁)

● 前田家本
● 原本

46

47
7/4/2021

最も古い写本である前田家本『枕草子』本文の四冊のうち、第一冊目と考えられる「春はあけぼの」巻の章段の配列を考察した。唐代の類書と一致した。また跋文に基づいて、源経房が最初に持ち出した原稿は「春はあけぼの」巻と考えた。清少納言は里で時間と紙があり、客観的に類書を参照して、身の回りことを執筆したのではないだろうか。前田家本『枕草子』の特性を新たに考察した。

● まとめ

47

48
7/4/2021

ご清聴
ありがとうございます
ございました

● 御礼

48